

平成24年岐阜県観光入込客統計調査

平成25年9月

観光課

1 観光入込客数

(1) 県全体の動向

平成24年の観光入込客数（実人数）は、前年と比較して、日帰り客数が減少（前年比▲0.5%）した一方で、宿泊客数は増加（前年比10.7%）し、全体では前年比0.8%の3,619万3千人となった。

また、行祭事・イベント入込客数は、延べ1,112万4千人（26.6%）となり前年より増加した。

区 分		平成24年	参考：平成23年
観光入込客数(実人数)	全 体	3,619万3千人(0.8%)	3,589万3千人
	日 帰 り	3,155万人(▲0.5%)	3,169万7千人
	宿 泊	464万4千人(10.7%)	419万6千人
行祭事・イベント入込客数(延べ人数)		1,112万4千人(26.6%)	878万8千人

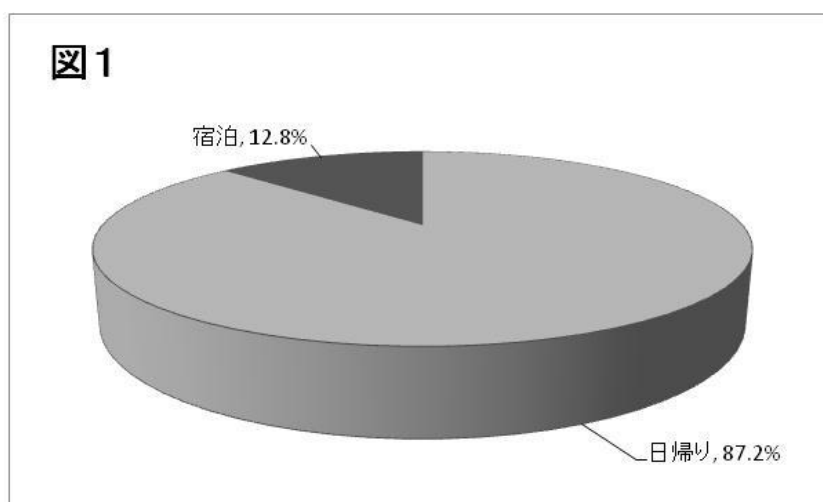
※平成23年の調査より、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」を導入し、調査手法を変更している。

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

① 日帰り・宿泊別観光入込客数

平成24年の観光入込客数は3,619万3千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は3,155万人、宿泊客は464万4千人であり、依然として日帰り客が多いものの、宿泊客の占める割合は前年より1.1ポイント増加した。

(図1)

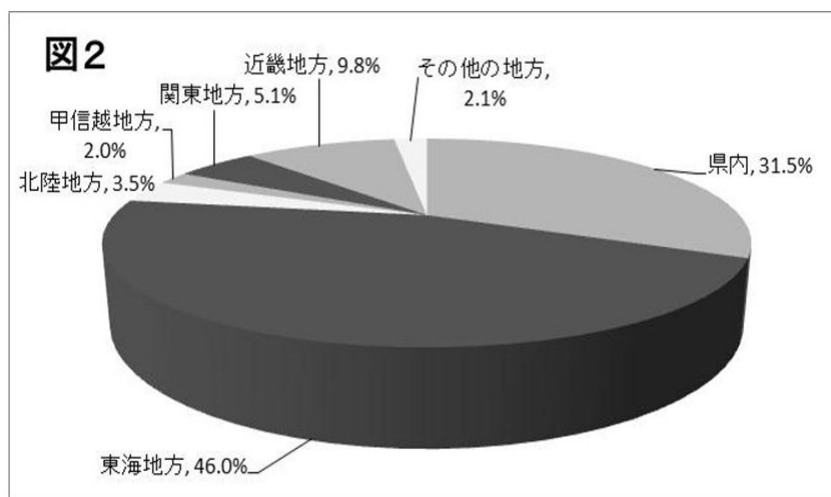


圏域別に見ると、中濃圏域が日帰り客の割合が最も高く（構成比96.3%）、西濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客47.4%、宿泊客52.6%と宿泊客の割合が日帰り客の割合より高く、飛騨圏域の宿泊客279万1千人は県全体の宿泊客の60.1%を占めた。

② 居住地別観光入込客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は1,141万7千人（構成比31.5%）、県外客は2,477万7千人（構成比68.5%）と、県外客が多くを占めた。特に飛騨圏域では県外客の割合が79.2%と高い。（図2）

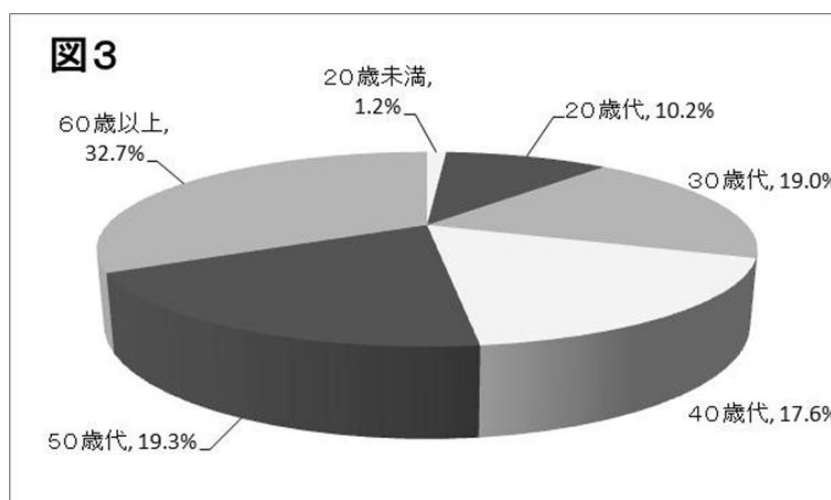


県全体では、県外客のうち67.3%が東海地方からの観光客であり、以下近畿、関東地方と続いている。前年に比べ、県内や東海、近畿地方からの観光客の割合が増えた一方、関東、甲信越、北陸地方からの観光客の割合が減少した。

③ 男女別・年齢別観光入込客数

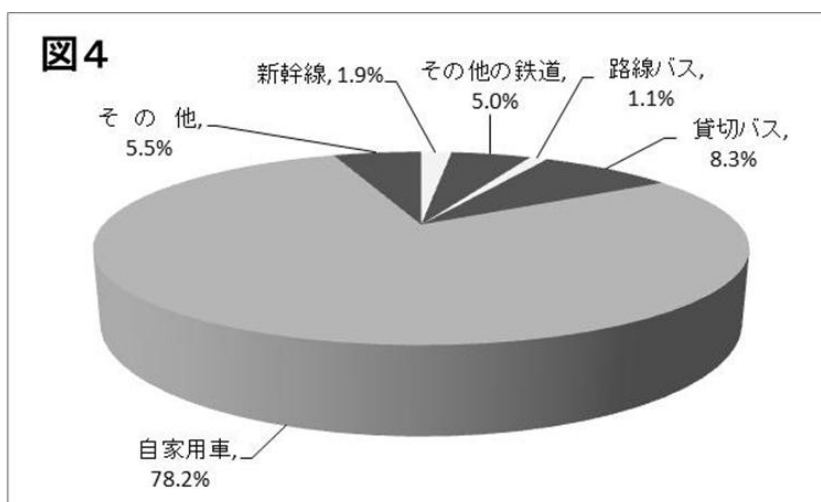
男女別で見ると、男性が2,034万8千人（構成比56.2%）、女性は1,584万5千人（構成比43.8%）と前年に引き続き、男性が多かった。

年齢別では、60歳以上が32.7%と最も多く、以下50歳代、30歳代と続いている。（図3）



④ 利用交通機関別観光入込客数

利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の78.2%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。(図4)



⑤ 同行者別観光入込客数

同行者人数別に見ると、「2～3人」が最も多く全体の63.8%を占め、続いて「4～5人」が20.3%であった。

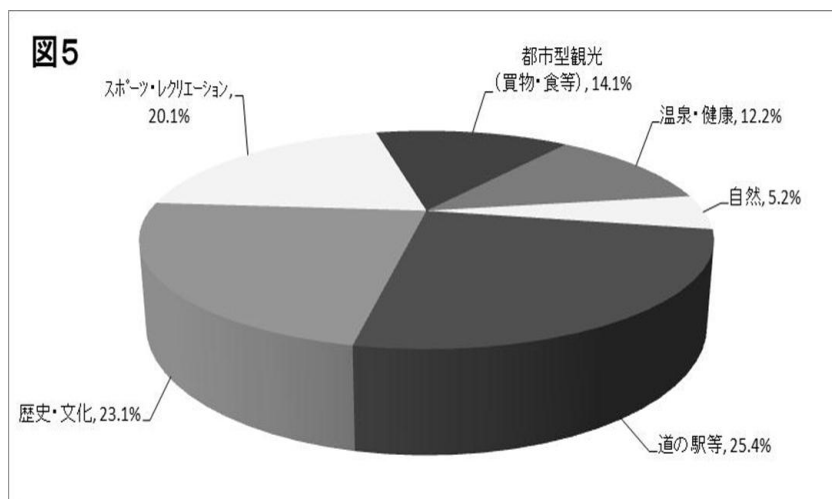
「団体旅行」(1人以上)の割合は全体の3.7%にとどまり、少人数による観光形態が主流となっている。

同行者別に見ると、「家族」が76.5%と最も多く、次いで「友人」16.8%と続く。

⑥ 観光地分類別観光入込客数

観光地分類別に見ると、「道の駅等」、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」の順に多く、以下、「都市型観光(買物・食等)」、「温泉・健康」、「自然」と続く。

(図5)



⑦ 観光地点毎の入込客数のトップ10

観光地点毎の入込客数の県内トップは、「土岐プレミアム・アウトレット」(土岐市)で550万5千人となった。2位が「河川環境楽園(アクア・トトぎふ含む)」(各務原市)で417万4千人、3位が「高山地域」(高山市)で250万6千人となり、1位から3位までの地点の順位に変動はなかった。

(単位：万人)

順位	観光地点名	入込客数	参考：23年	
			順位	入込客数
1	土岐プレミアム・アウトレット	550.5	1	531.5
2	河川環境楽園(アクア・トトぎふ含む)	417.4	2	410.8
3	高山地域	250.6	3	224.7
4	千代保稲荷神社	194.4	4	197.8
5	世界イベント村ぎふ	164.4	7	137.8
6	伊奈波神社	154.7	5	152.0
7	千本松原・国営木曾三川公園	130.1	6	150.7
8	下呂温泉	118.8	8	117.1
9	白川郷合掌造り集落	117.7	9	116.7
10	岐阜公園	85.0	10	82.1

<参 考>

1人当たり平均訪問地点数(「観光地点入込客数(延べ人数)」を「観光入込客数(実人数)」で除したものは、1.8地点で、四半期別に見ると、1～3月が1.8地点、4～6月が1.6地点、7～9月が2.1地点、10～12月が1.7地点であった。

また、同一施設における1人当たり平均宿泊数(「宿泊客数(延べ人数)」を「宿泊客数(実人数)」で除したものは、1.3泊で、四半期別に見ると、1～3月が、1.3泊、4～6月が1.2泊、7～9月が1.3泊、10～12月が1.2泊であった。

(2) 外国人宿泊客数

外国人の宿泊客数（実人数）は20万1千人となった。前年は3月に発生した東日本大震災の影響により外国人観光客数が大きく減少したが、平成24年は大幅に改善し、前年比105.1%に増加した。

区 分	平成24年	参考：平成23年
外国人宿泊客数（実人数）	20万1千人（105.1%）	9万8千人

<参 考>

・外国人宿泊客数

前年比が大幅に増加したとともに、東日本大震災前の水準を上回り増加した。

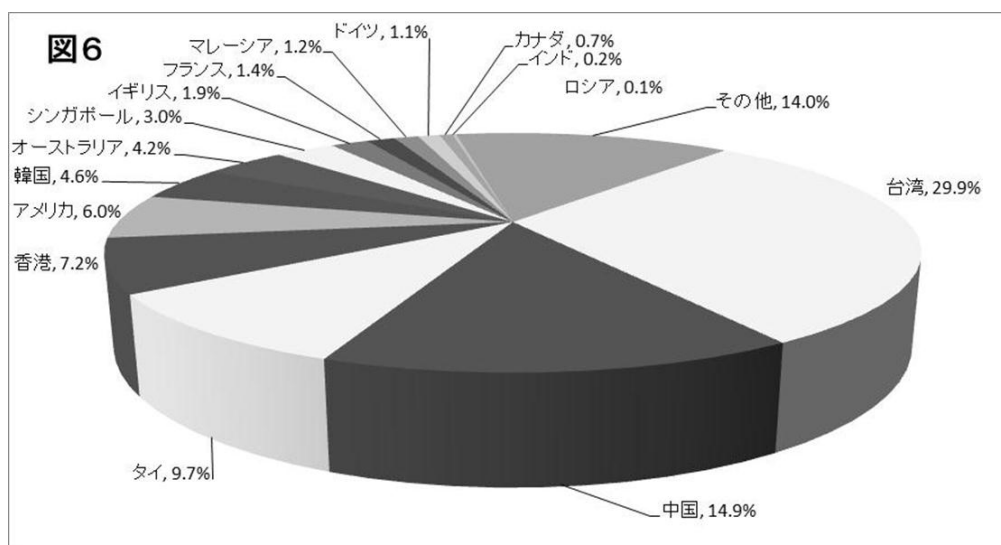
	H24（延べ人数）	H23年同期比	H22年同期比
岐阜県	26.0万人	94.0%	7.1%
全国	2,631.4万人	42.9%	-8.5%

（注）出典：観光庁「宿泊旅行統計調査報告」

H23年同期比：従業者数10人以上+10人未満の全宿泊施設の数値を使用

H22年同期比：従業者数10人以上の宿泊施設の数値を使用

- ・国籍（出身地）別外国人宿泊客数は1位が台湾で29.9%、2位が中国で14.9%、3位がタイで9.7%となった。（図6）



（注）出典：観光庁「宿泊旅行統計調査報告」従業者数10人以上の宿泊施設の数値

(3) 行祭事・イベント入込客数

平成24年の行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は1,112万4千人（前年比26.6%）であった。

○行祭事・イベント毎の入込客数のトップ10

行祭事・イベント毎の入込客数の県内トップは、昨年は開催中止となった「長良川花火大会」（岐阜市）で70万人、2位が「道三まつり」（岐阜市）で41万人、3位が「ぎふ信長まつり」（岐阜市）で40万人となった。

また、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会では各地が会場となり、多くの人を訪れ、岐阜市では35万6千人となった。

（単位：万人）

順位	行祭事・イベント名	入込客数	参考：23年	
			順位	入込客数
1	長良川花火大会	70.0	-	-
2	道三まつり	41.0	-	-
3	ぎふ信長まつり	40.0	1	40.0
4	ぎふ清流国体・ぎふ清流大会（岐阜市）	35.6	-	-
5	高山祭	33.3	3	32.5
6	土岐美濃焼まつり	29.0	4	32.0
7	刃物まつり	26.0	6	26.0
8	元気ハツラツ市	25.5	6	26.0
8	郡上おどり	25.5	5	26.6
10	日本ライン夏まつり納涼花火大会	23.0	9	25.0

2 各圏域の動向

圏域別に観光客数をみると、岐阜圏域、西濃圏域で減少となった。いずれも宿泊客数は増加したものの、日帰り客数が減少し、全体として減少した。

一方で、中濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域では増加となった。このうち、中濃圏域と東濃圏域では、宿泊客数は減少したものの、日帰り客数が増加し全体として増加した。また、飛騨圏域では、日帰り客数、宿泊客数ともに増加した。

また、行祭事・イベント入込客数をみると、全域で増加となった。前年に東日本大震災の影響で中止となった行祭事・イベントが開催されたことや、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会が開催され純増となった。

<圏域別観光入込客数、行祭事・イベント入込客数> (単位：万人)

	日帰り客数	宿泊客数	観光入込客数(実人数、合計)	行祭事・イベント入込客数(延べ人数)
岐阜圏域	613.1	82.6	695.7(▲9.7%)	353.0(70.7%)
西濃圏域	649.2	32.6	681.8(▲10.0%)	259.0(10.7%)
中濃圏域	790.4	30.6	821.0(5.6%)	182.6(25.8%)
東濃圏域	850.5	39.4	890.0(11.1%)	223.0(0.9%)
飛騨圏域	251.7	279.1	530.8(9.9%)	94.9(31.9%)
合計	3,155.0	464.4	3,619.3(0.8%)	1,112.4(26.6%)

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

① 岐阜圏域

- ・観光客数は695万7千人で、前年と比べて74万7千人の減少(対前年比▲9.7%)となった。このうち、日帰り客数は613万1千人となり、前年に比べ75万5千人減少(対前年比▲11.0%)した。一方で、宿泊客数は82万6千人と8千人増加(対前年比0.9%)した。
- ・観光地点別についてみると、8月にオープンした「長良川うかいミュージアム」で純増した一方、前年に国宝薬師寺展が開催されたことによる増加の反動により「岐阜市歴史博物館」は減少した。
- ・行祭事・イベント別入込客数についてみると、前年は東日本大震災の影響により中止となった「長良川花火大会」や「道三まつり」、「手力の火祭」などの主要な行祭事・イベントが今年は開催され、純増となった一方で、降雨やブルーインパルスの飛行がないなどの影響により「航空祭」が減少した。

② 西濃圏域

- ・観光客数は681万8千人で、前年と比べて75万8千人の減少(対前年比▲10.0%)となった。このうち、日帰り客数は649万2千人となり、前年に比べ78万6千

人減少（対前年比▲10.8%）した。一方で、宿泊客数は32万6千人と2万9千人増加（対前年比9.6%）した。

- ・観光地点別についてみると、4月にオープンした「奥の細道むすびの地記念館」が純増した一方で、降雨などの天候不順により、「千本松原・国営木曽三川公園」などで減少した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、前年は東日本大震災の影響により中止となった「大垣花火大会」や、「谷汲さくらまつり」、「池田サクラまつり」などが今年は開催され、純増となった一方で、降雨などの天候不順により、「チューリップ祭」が減少した。

③ 中濃圏域

- ・観光入込客数は821万人で、前年と比べて43万5千人の増加（対前年比5.6%）となった。このうち、日帰り客数は790万4千人となり、前年に比べ44万7千人増加（対前年比6.0%）した。一方で、宿泊客数は30万6千人と1万2千人減少（対前年比▲3.9%）した。
- ・観光地点別についてみると、バラが見頃を迎えた時期の天候に恵まれた「花フェスタ記念公園」が増加し、9月に道の駅に指定された「美濃白川クオーレの里」や、1月に温泉がオープンした道の駅「美濃白川」が増加した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、前年は東日本大震災の影響により中止となった「関まつり」や「美濃まつり・さくらまつり」、「ツアーオブジャパン美濃ステージ」、「めいほう高原音楽祭」などの行祭事・イベントが今年は開催され、純増となった。

④ 東濃圏域

- ・観光入込客数は890万人で、前年と比べて89万2千人の増加（対前年比11.1%）となった。このうち、日帰り客数は850万5千人となり、前年に比べ89万8千人増加（対前年比11.8%）した。一方で、宿泊客数は39万4千人と6千人減少（対前年比▲1.4%）した。
- ・観光地点別についてみると、前年に引き続き観光地点毎の入込客数県内トップとなった「土岐プレミアム・アウトレット」がPR効果により増加し、6月にオープンした「瑞浪市農産物等直売所『きなあつ瑞浪』」が純増した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、第2回の開催となった「美濃焼祭（多治見市）」や期間中天候に恵まれた「曾木公園もじみライトアップ」などで増加した。

⑤ 飛騨圏域

- ・観光入込客数は530万8千人で、前年と比べて47万9千人の増加（対前年比

9.9%)となった。このうち、日帰り客数は251万7千人となり、前年に比べ4万9千人増加(対前年比2.0%)した。また、宿泊客数は279万1千人と43万人増加(対前年比18.2%)した。

- ・観光地点別についてみると、東日本大震災の影響による観光客数の減少に対応した誘客キャンペーンやイベントの実施などにより「高山地域」や「飛騨古川 古い町並み」などで増加した。
- ・行祭事・イベント別の入込客数についてみると、前年は東日本大震災の影響により中止となった「古川祭」が今年は開催され、純増となった。

3 観光消費額

平成24年の観光消費額の総額は2,460億29百万円（対前年比3.7%）で、うち日帰り客分は1,410億70百万円（対前年比13.7%）、宿泊客分は1,049億59百万円（対前年比▲7.3%）であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は4,471円（対前年比14.2%）、宿泊客は22,603円（対前年比▲16.2%）であった。

宿泊客分は、宿泊客数が増加したものの、宿泊客一人当たりの平均消費額が減少したことで減少した一方で、日帰り客分は、日帰り客数が減少したものの、日帰り客一人当たりの平均消費額が増加したことで増加し、全体の観光消費額は前年と比較し増加した。

区 分	観光消費額	参考：H23
全 体	2,460億29百万円（3.7%）	2,372億31百万円
日帰り	1,410億70百万円（13.7%）	1,240億64百万円
宿 泊	1,049億59百万円（▲7.3%）	1,131億67百万円

4 経済波及効果（試算）

平成24年の生産誘発額は3,753億9百万円、就業誘発効果は36,219人となった。

<参考>

可児市の製造品出荷額等 3,771億76百万円（H24 経済センサス活動調査）

※県全体（4兆8,884億73百万円）の7.7%

海津市の人口 36,516人（H25.7.1 推計人口）

※県人口（2,054,349人）の1.8%

<参 考>

○調査の概要

本調査は、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」（平成21年12月）に基づき、実施したものである。

1. 調査期間

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで

2. 調査対象観光地点等

①観光地点の定義

- ・非日常利用が多いと判断される地点。
- ・観光入込客数が適切に把握できる地点。
- ・前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である地点。

②観光地点等の分類

観光地点等の分類は以下の区分による。

■観光地点	
自然	山岳、高原、湖沼、河川、海岸、海中、島、その他自然（エコツーリズム、グリーンツーリズム等）
歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
温泉・健康	温泉地、その他温泉・健康
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリーナ・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
都市型観光 一買物・食等一	商業施設、地区・商店街、食・グルメ、その他都市型観光一買物・食等一（農水産品の直売所、物産館等）
道の駅等	他に分類されない観光地点（道の駅、パーキングエリア等）
■行祭事・イベント	行・祭事、花見、初詣、花火大会、郷土芸能、地域風俗、博覧会、コンサート、スポーツ観戦、映画祭、コンベンション・国際会議、他に分類されない行祭事・イベント

3. 調査プロセス

(1) 観光地点等入込客数調査

統計の基礎となる観光地点等ごとの入込客数（延べ人数）を把握する。

(2) 観光地点パラメータ調査

県内の15観光地点を訪れた観光客を対象に調査を行い、属性別の構成比、平均訪問地点数、平均消費額単価などのパラメータを算出する。

(3) 観光入込客数（実人数）・観光消費額単価・観光消費額の推計

上記（1）、（2）及び観光庁より提供される以下のデータを用いて推計する。

- ・観光目的別・居住地別の宿泊観光入込客数
- ・ビジネス目的・県外の日帰り観光入込客数
- ・観光目的別・宿泊／日帰り別の訪日外国人の観光消費額単価